渋沢栄一翁を主人公とした新作能

顕彰能

グランシップ静岡能

# 青淵（せいえん）

※「青淵」は渋沢栄一の雅号

©大野仁志

## 静岡から動き出す、近代日本経済の祖・渋沢栄一の物語

**一万円札の「顔」として知られ、大河ドラマでも注目を集めた渋沢栄一。**
**その半生を描く新作能「青淵」は、実は静岡とも深いつながりがあります。**
**主君・徳川慶喜との再会や、日本初の金融商社を立ち上げるなど、**
**人生を動かした静岡を舞台にはじまる物語「青淵」。その見どころをご紹介します。**

## 序 「青淵」物語のはじまり

時は幕末。武蔵国で生まれた農家の若者・渋沢篤太郎は、徳川慶喜に見いだされます。

慶喜の命を受けて海を渡った先は、フランス・パリ万国博覧会。世界最先端の産業や経済、株式会社という新しい仕組みに触れた渋沢は、日本の未来を思い描きます。

明治維新後、帰国した渋沢が向かった先は、駿府。謹慎生活を送る、かつての主君・徳川慶喜のもとでした。

二人の再会をきっかけに動き出す、新たな時代への決意と挑戦。新作能「青淵」は、ここから幕を開けます。

# 静岡から動き出す、近代日本を変えた一歩

**2025年に初演され、話題となった新作能「青淵」が、東京以外では初めて静岡で上演されます。実は静岡にもゆかりの深いこの演目。渋沢栄一と徳川慶喜の絆、渋沢の信念である道徳と経済の調和を描いた舞台を、ぜひグランシップでお楽しみください。**

## 徳川慶喜から託された日本の未来

静岡で株式会社の原型「商法会所」を立ち上げた渋沢篤太郎（後の栄一）は、その手腕を見込まれ、新政府から出仕を求められます。徳川家への忠義と、国の未来への使命。その狭間で揺れる篤太郎の背中を押したのが、旧主・徳川慶喜の「国のため、民のために尽くしなさい」という言葉でした。この場面は、篤太郎の新たな人生、そして近代日本経済の礎へとつながる大きな転機を描いています。謹慎中のため人との面会を控えていた慶喜が、篤太郎との再会には応じたことも、二人の深い信頼関係を物語っています。

舞台前半、篤太郎の新たな人生を慶喜が後押しする

## 試される志と決意の舞

慶喜に背中を押され、上京した篤太郎。その夜、夢の中に悪鬼が現われ、私利私欲へと誘いながら志を試します。しかし、孔子の教えを盾に頑として誘惑に応じず、信念を貫く姿が見どころです。

夢から覚めた篤太郎は、倫理ある経済の大切さを説き、世界各国が交流し、ともに栄える未来への願いを込めて「栄一」と名を改めます。新しい時代への決意を胸に、祈りを込めて舞う、希望に満ちたクライマックスです。新たな人生へ踏み出すこの場面で「青淵」を締めくくります。

クライマックスは、未来への願いを込めて「栄一」が舞う

舞台後半、夢の中で悪鬼と向き合う篤太郎

## 渋沢栄一“静岡ゆかりの地”

**人生の転機となった静岡には、渋沢の足跡を伝える場所が残されています。**

### 教覚寺　静岡市葵区常磐町

慶喜が代官屋敷へ移ったことから、そこを役宅としていた渋沢は教覚寺へ。家族とともに寄宿し、「商法会所」から改称した「常平倉」も移し、静岡を離れるまでここで暮らしました。

### 浮月楼　静岡市葵区紺屋町

現在の浮月楼には、かつて駿府の代官屋敷があり、渋沢はここに「商法会所」を設立。その後、謹慎を解かれた慶喜の住まいとなりました。

### 宝台院　静岡市葵区常磐町

明治元年12月、パリから帰国した渋沢が、謹慎中の慶喜と再会した寺。慶喜は謹慎が解かれる明治2年までの約1年間をここで過ごし、その後、慶喜の望みもあり渋沢も静岡へ移り住みました。

## 「一度は観てみたい」を叶える！能楽鑑賞デビューは「青淵」で！

「能を見てみたいけれど、難しそう…」。そんな方にもおすすめな新作能「青淵」。気軽に楽しめるポイントをご紹介します。

**詞章（セリフ・歌詞）が分かりやすい**

現代に近い言葉で語られるため、聞き取れる言葉も多く、物語を掴みやすいことも近代の人物をテーマとした新作能ならでは。「駿府」、「駿河」など静岡を表す言葉も登場します。舞だけではなく耳を澄ませながら物語を楽しんでみませんか。

**初めてでも安心！「能サポ」**

貸出端末利用料:500円

舞台の進行と合わせて場面解説や歴史的内容の補足が端末に表示されます。大きな文字で解説を見ながら鑑賞できるので、初心者や高齢者、聴覚障がい者の方にもおすすめです。
多言語対応もあり、海外のお客様にも便利にご利用いただけます。
※ご自身のスマートフォンにアプリをダウンロードする場合は無料

## 伝統を次世代へ、地域へ

静岡県文化財団では1999年のグランシップ開館以来、様々な世代や地域の皆様が、日本が誇る伝統芸能・能楽に触れられるよう、観世流能楽師をはじめとする実演家の協力のもと、能楽の普及・継承に取り組んできました。

### わくわく能楽教室

県内の小学生～大学生が能楽にチャレンジ！約2カ月に渡り、能楽師の指導で所作、謡、仕舞を身につけ、「グランシップ静岡能 能楽入門公演」の来場者の前で成果を発表。これまで16回開講し、延べ参加者は350人以上にのぼる。

### 学校でのアウトリーチ活動

県内各地の学校で能楽公演や狂言ワークショップを開催。子どもたちは能楽の基本を学んだ後、実際の公演を鑑賞。子どもたちが演者と近い距離で伝統芸能に触れられる機会を提供している。

### 出前公演

グランシップを飛び出して、県内の文化施設と協働し能楽公演を開催。能の基本的な動きや能楽で使う楽器を体験できるワークショップも。

### 能楽わんだーらんど

能楽師によるわかりやすい説明とカラフルな映像を用いて、ファミリーで気軽に能楽に親しめる公演として実施。出前公演として県内文化施設でも開催。

## グランシップ静岡能「青淵」　2027年1月24日（日）14:00～

■中ホール・大地　■全席指定／一般5,800円　こども・学生1,000円

出演：山階彌右衛門、関根祥丸、観世流能楽師　　渋沢栄一顕彰能「青淵」作：中村雅之